

標 題 : Food Groups and Risk of Colorectal Cancer in Italy
食品群とイタリアにおける結直腸癌リスク

著 者 : S. Franceschi, et al. (イタリア アビアノ Centro di Riferimento Oncologico)

掲 載 誌 : Int. J. Cancer. 72: 56-61 (1997)

要 旨 : 食事習慣が原因である結直腸癌の比率は高いが、特に一部の食品群に関し複数の不一致が残る。

食事習慣の役割をさらに解明するため 1992 から 1996 年の間にイタリアの 6 地域で、結腸癌の患者 1,225 人、直腸癌の患者 728 人および急性の非腫瘍性疾患で入院した対照 4,154 人に面接した。

認証済みの食品頻度アンケートには、食品項目および調理法の質問 79 が含まれ、6 食品群に分類された。

非食事交絡因子および総エネルギー摂取を考慮した後で、結直腸癌リスク上昇の有意な傾向が、パンおよび穀物料理(5 区部の最高と最低とのオッズ比[OR]=1.7)、ジャガイモ(OR=1.2)、ケーキおよびデザート(OR=1.1)、および精製糖(OR=1.4)に現れた。

魚(OR=0.7)、生および調理野菜(両方とも OR=0.6)、および柑橘類を除く果実(OR=0.7)は、リスクと逆の関連を示した。

卵および肉(白肉(訳注: 鶏、豚肉)、赤肉(訳注: 牛、羊肉)および加工肉)は影響なしと見えた。

大部分の調査結果は結腸と直腸で同様であったが、一部の逆の関連(コーヒーとお茶、および魚)は結腸癌で強かった。

炭水化物の消化生理およびインスリン/結腸癌仮説に関する最近の知見を考慮すると、我々の調査結果は澱粉質食品および精製糖の役割を考えさせる。

大部分の野菜の良い作用が確認され、1 日 1 食で結直腸癌のリスクが 20%を超えて減る。
